



鈴虫の鳴き声に、秋を感じます。戸外に出るにはとてもいい季節になってきました。お弁当を持って出かけたいですね。外で食べると、子ども達の気分も変わり、楽しく食べられるのではないのでしょうか。



欲張りの子ども達をどう見る？

自我が芽生えてくると、たちまち子どもは自分の物に執着して欲張りになってきます。遊んでいるおもちゃに友達が近づこうものなら「だめ！！」と大きな声で怒ったり、遊んでいるおもちゃは絶対に貸したくないというような姿はありませんか？

このような姿は、成長過程であたりまえの姿なのです。意地悪をしようとして貸さないのではありません。自我が芽生えた子供たちは、みんな欲張りになっていきます。好きな対象は物だけでなく、お気に入りの場所や人にまで及び、片っ端から「自分のもの」にしてしまいます。自分の物を確保することによって、子どもは自己拡大を試みているのでしょう。自分の気持ちをまだ言葉で言い表せないこの時期、物は子どもの言葉に代わる大切な自己顕示の一つなのです。

気に入った物をみんな抱え込んで離さない子どもに、「遊ばないで持っているだけなら、お友達にも貸してあげなさい」などと言っても、通用しません。大人は、「このまま放っておいたらどんなわがままな子になってしまうのだろう・・・」などと、つい先を案じて厳しくかかってしまいがちです。しかし、「そっか、それはみんな〇〇ちゃんが使いたかったんだね」と、まずその子の思いを受け止め、言葉で表現してあげることが大切なのだと思います。そうすることによって子どもは、独り占めしながらも、「ちょっとなら貸してあげようかな・・・」という思いが生まれてくるようです。「自分が一番たくさんほしい」という欲求がかなえられると、やがて人の要求も聞いてあげようかなという気持ちがわいてきます。

早い時期から順番を守り、貸し借りがスムーズにできるようにする。それが社会性の育ちではありません。まずは、「大好きなものが自分のもの」として認めてもらえること、物の取り合いの際は「それは〇〇ちゃんが使っていたんだよね。大事なんだよね。△△ちゃんも使いたかったって。」と、お互いの所有意識を大切にすることが、物や人の関わりを強めます。

「取り合いはだめ」と子どもの自己主張を抑えるのではなく、自分も、相手の立場も大切にされることが必要です。それによって、自己主張の意義やその限界を感じ取り、他の子の存在に気づいていきます。そして、相手にも気持ちがあることを知っていきます。まずは、たくさん欲

しい気持ちを受け止め言葉にしてあげて下さい。自分からひとつ貸してくれる日が楽しみです
ね。

また、この時期子ども達は友達との関わりを学んでいきます。友達の持っているおもちゃはと
ても魅力的に見え、手が伸びます。そんな子どもの姿に「お友達のおもちゃ取っちゃだめだよ」「い
つも取ってばかり」などと言っていないか？子どもがやり取りを学ぶチャンスです。○○ちゃんも
使いたかったんだね。」とまずは子どもの思いを受け止め言葉で表現し、一緒に「かして」と声に出
しやり取りを伝えてあげて下さい。大人が全部やってしまえば、子どもの学ぶチャンスを奪ってし
まうことになります。全部やってあげるのではなく、『一緒に』がポイントです。最初は言わないかも
しれませんが、かしての「て」だけを言えるようになっていたり、ジェスチャーを交えて伝えられるよう
になっていきます。そして、貸してもらえ嬉しかった経験を積み重ねていくことで、「かして」と自分から
伝えられるようになっていきます。お母さんの力を借りながら、伝えられるようになるといいです
ね。

